

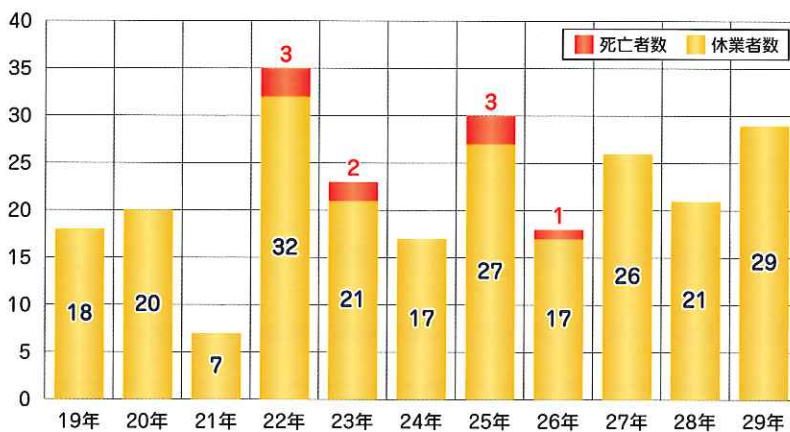
熱中症を防ごう!

職場における熱中症予防対策のポイント

平成29年の熱中症による休業4日以上労働災害は29件で、業種別では、建設業で12件、製造業で4件、ビルメンテナンス業で3件のほか、運送業、貨物取扱業や介護事業において発生しています。

熱中症に対しては、正しい知識と適切な予防対策や応急処置が必要です。本格的な夏を迎える前から、熱中症の予防対策を計画的に進めましょう。

神奈川県内における熱中症発生状況（休業4日以上災害）



勤務が終わり帰宅してから、症状が悪化し救急搬送される方が出ています。日中から熱中症の症状（頭痛、気分の不快、吐き気など）が見られ、特段の措置が取られない場合はもとより、休憩の取得や作業の中断を行っても体調が回復しない場合があります。

本人や周りが異変を感じたら、体温を下げるようにし、通常の体調に戻らない場合は、早めに医師の診察を受けましょう。

熱中症とは?

高温、多湿の環境下で、体内の水分及び塩分のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして発症する障害の総称で、症状などにより次のように分類されます。

I度	めまい・失神…「立ちくらみ」のこと。「熱失神」と呼ぶこともあります。 筋肉痛・筋肉の硬直…筋肉の「こむら返り」のこと。「熱痙攣」と呼ぶこともあります。 大量の発汗	重症度 小 ↓ 重症度 大
II度	頭痛・気分の不快・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感… 体がぐったりする、力が入らない、など。従来「熱疲労」と言われていた状態です。	
III度	意識障害・痙攣・手足の運動障害… 呼びかけや刺激への反応がおかしい、ガクガクと引きつけがある、まっすぐに歩けない、など。 高体温… 体に触れると熱いという感触があります。従来「熱射病」と言われていたものが相当します。	

ご不明な点がございましたら
右記までお問い合わせください

手当の方法

- 暑い現場から涼しい日陰か、冷房が効いている部屋などに移す。
- 水や塩分を取らせる。
- 暑い現場から涼しい日陰か、冷房が効いている部屋などに移す。
- 水や塩分を取らせる。
- 扇風機の風に当たったり、氷嚢などがあれば、それを首、腕の下、足の付け根に当てる。
- 衣類を緩めて(場合によっては脱がせて)、体から熱の放射を助ける。
- うちわ、扇風機の風に当たったり、氷嚢などがあれば、それを首、腕の下、足の付け根に当てる。

救急処置

あらかじめ緊急連絡網を作成し、関係者に知らせておいてください。また、作業現場の近くの病院や診療所の場所を確認してください。少しでも異常が見られたら、下記の手当を行ってください。

呼びかけに対する返事がおかしいなど意識障害がある場合、自力で水分が摂取できない場合、症状が回復しない場合、その他必要と認められる場合には、直ちに医療機関に搬送してください。

WBGT値	25℃未満	25℃～28℃	28℃～31℃	31℃以上
25	18	18	18	28
26	18	19	20	28
27	19	20	21	29
28	20	21	22	30
29	21	22	23	31
30	21	22	23	32
31	22	23	24	33
32	23	24	25	34
33	24	25	26	35
34	25	26	27	36
35	26	27	28	37
36	27	28	29	38
37	28	29	30	39
38	29	30	31	40
39	30	31	32	41
40	31	32	33	42
41	32	33	34	43
42	33	34	35	44
43	34	35	36	45
44	35	36	37	46
45	36	37	38	47
46	37	38	39	48
47	38	39	40	49
48	39	40	41	50
49	40	41	42	51
50	41	42	43	52
51	42	43	44	53
52	43	44	45	54
53	44	45	46	55
54	45	46	47	56
55	46	47	48	57
56	47	48	49	58
57	48	49	50	59
58	49	50	51	60
59	50	51	52	61
60	51	52	53	62
61	52	53	54	63
62	53	54	55	64
63	54	55	56	65
64	55	56	57	66
65	56	57	58	67
66	57	58	59	68
67	58	59	60	69
68	59	60	61	70
69	60	61	62	71
70	61	62	63	72
71	62	63	64	73
72	63	64	65	74
73	64	65	66	75
74	65	66	67	76
75	66	67	68	77
76	67	68	69	78
77	68	69	70	79
78	69	70	71	80
79	70	71	72	81
80	71	72	73	82
81	72	73	74	83
82	73	74	75	84
83	74	75	76	85
84	75	76	77	86
85	76	77	78	87
86	77	78	79	88
87	78	79	80	89
88	79	80	81	90
89	80	81	82	91
90	81	82	83	92
91	82	83	84	93
92	83	84	85	94
93	84	85	86	95
94	85	86	87	96
95	86	87	88	97
96	87	88	89	98
97	88	89	90	99
98	89	90	91	100

WBGT値と気温、相対湿度との関係

熱中症を防ぐには

直射日光等により高温・多湿になる屋外作業場所などで、熱中症を予防するための対策に努めてください。

1 作業環境管理

- 休憩場所の整備など
 - 冷房を備えた休憩場所・日陰などの涼しい休憩場所の設置
 - 氷、冷たいおしぼりなどの身体を適宜に冷やすことのできる物品や設備の設置
 - 飲料水・塩分などの備付け

2 作業管理

- 作業時間の短縮など
 - 作業の休止時間・休憩時間の確保、連続作業時間の短縮、身体作業強度が高い作業の回避
 - 熱への慣れ・適応(順化)
 - 計画的な熱への順化期間の設定

4 労働衛生教育

- 作業を管理する者及び労働者に対して
- 熱中症の症状
 - 熱中症の予防方法
 - 緊急時の救急処置
 - 熱中症の事例
- についてあらかじめ教育を行うこと。
- ※新たに労働衛生教育の「事項」・「範囲」・「時間」が示されました。< 基安発0229平成28年2月29日 >

3 健康管理

- 健康診断結果に基づく対応など
 - 健康診断結果などによる作業者の健康状態の把握(糖尿病、高血圧、心疾患などの疾患は、熱中症の発症に影響を与えおそれがあります)
 - 2) 日常の健康管理など
 - (3) 労働者の健康状態の確認など
- 暑さ指数(WBGT値)の活用など
 - 暑さ指数(WBGT値)とは、①温度、②湿度、③輻射熱の3つを取り入れた指標で、単位は気温と同じ「℃」で示されます。
 - ※「WBGT指数計」について、JIS規格が制定されています。